

健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

リビング・UIL

2019年
4月発行

No.173

Living Will No.173 2019年4月発行

評論家

発行 一般財団法人日本尊厳死協会

編集 協会会報編集部

デザイン FROG KING STUDIO

印刷 JPビズメール株式会社

最期になると
心も揺れ考えも
変わるもののです

樋口恵子さん



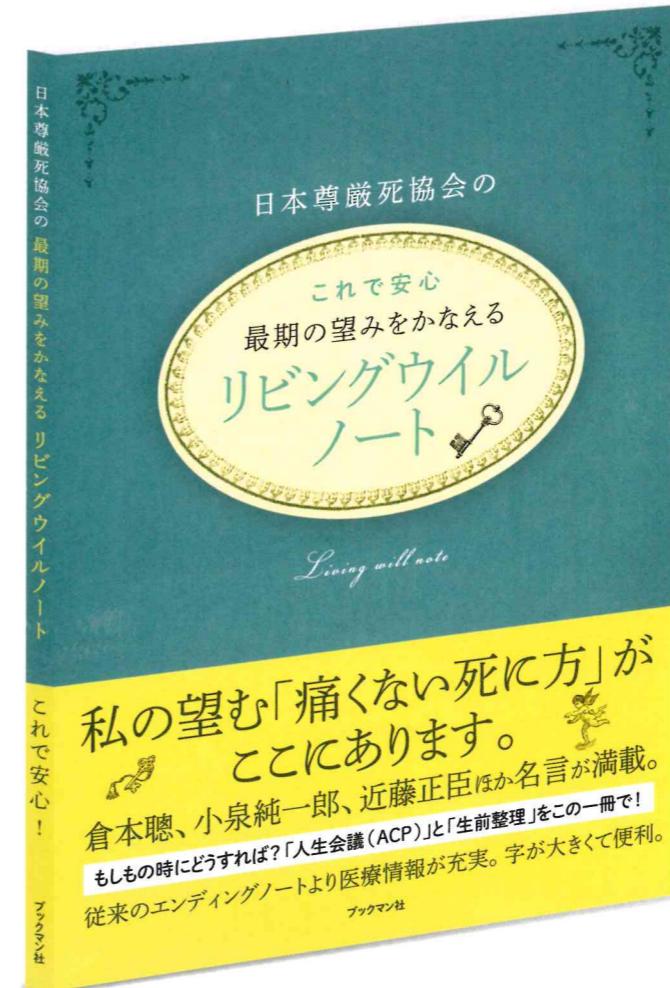
一般財団法人
日本尊厳死協会

日本尊厳死協会の出版案内

好評
発売中!

最期の望みをかなえる リビングウイルノート

私の望む「痛くない死に方」がここにあります。



主な内容

- 尊厳死協会の会報「Living Will」のインタビューに登場された、小泉純一郎・元首相や脚本家の倉本聰さん、俳優の近藤正臣さん、秋野暢子さん、仁科亜季子さん、作家の北方謙三さんの名言を再録。
- 延命措置やACP(人生会議)など医療情報の解説や尊厳死協会の役割などのほか、「私の病気の記録」や「もしもの時の確認メモ」(健康保険証や基礎年金の番号など)、「終末期の最期の過ごし方の希望」「食べることができなくなった時の希望」……など、書き込むページや欄もたくさん詰まったエンディングノートの決定版。
- 「旅立ったあとで~大切な人へのメッセージ」や「旅立つ前に会っておきたい人」、「葬儀に呼んでほしい人」を書き込むリストの欄も充実

発行:ブックマン社
定価:1100円(税別) A4判104ページ

この「リビングウイルノート」には、
あなたの「リビング・UIL」を入れるスペースがあります。
是非お手もとにセットで!!
もしもの時にそなえ、こころの「生前整理」を

協会事務局でお求めできます。1100円(税・送料込)。お名前、住所、会員の方は会員番号を明記。
代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に。

樋口 恵子さん

「名刺の裏に
書いています
『最期のあり方』を

インタビュー・構成／会報編集・都司武 写真／白谷達也



ネコのダンちゃん(13才)を脇にインタビューに答える樋口さん



名刺の裏に「私、回復不可能、意識不明の場合、苦痛除去以外の延命治療は辞退致します」。表に「娘 樋口睦にもよく申つけてあります」とある。2000年頃から始め、名刺が汚れたりすると更新する。「名刺はもう4、5枚目になりますかね」

——それは何ですか？名刺の裏に何か書いてありますね。

樋口 ああ、これね。私は健康保険証と一緒に、名刺の裏に、このように書いて（と言つて名刺の裏を見せる）いつも携帯しているんです（写真参照）。最期についての最低限のことは書いてありますから、希望は叶えられるんじやないかと思つています。これが私の、最期のあり方の「希望表明書」です。あとで詳しくお話ししますね。

——はい、そうしましよう。
樋口さんは、これまで身近な人をすいぶん亡くしてこられたと、書かれたり話されたりしています。
お父さまは考古学者（柴田常恵）でしたね。亡くなられたのは、樋口さん、おいくつの時ですか。

樋口 私は、父が55歳の老境の頃に生まれた子として。私が大学の4年生だった22歳の時に77歳で亡くなりました。昭和29年、ちょうど就活の真っ最中だった時で、学生新聞サークルで忙しく動き回っていた頃でした。朝出かけた時は特に何でもなくて、夜遅く帰ると、

練馬の豊島園近くにあつた家の2階に、煌々と電気が点いていてね。「何事かが起こった」と感じました。玄関を入つたら母（繼母）が大声で「お父さんが亡くなっちゃったのよおーっ」と。

——死因は何だったんですか。

樋口 脳血栓から心不全になつたんですね。もともと少し心臓が弱つていきましたので、一気に逝つてしましました。すぐに医師を呼んだようですが、もう冷たくなりかけていたそうです。大往生と言つていいかもしれませんね。

——私は号泣しながら一部始終をみてました

——実のお母さんは、もっと早く亡くなっていますね。

樋口 私が小学2年の時でした。胃がんで入院していて、最期は離れの部屋で在宅療養でした。ある夜、起こされて「お母さんが亡くなるから、お別れをしなさい」と。ほんとに静かに眠つていて、苦しこう様子もなかつたですね。呼吸が静かになり、肩でしていた息が、

す一つと消えました。52歳でした。

樋口 父はその頃、慶應大学で教えていて、お弟子さんもいっぱいいました。その人たちに仕切つてもらひ、母の葬儀は自宅でしました。庭にテントを張つて、座敷を「葬儀場」にしてという、戦前の東京の中流家庭の送り方でしたね。

昭和15年ごろで、戦争が激しくなる直前のつかの間の平和な時でした。母を見取つたあと、死者的を送り出す流れ、といいますか、それを私は号泣しながら、一部始終をみていました。死んだ人に対する礼儀と言いますか弔いの大切さ、強く感じましたね。

その時、兄は5年生で、早熟で有名な文学少年でした。斎藤茂吉の「死にたもう母」をもじつて歌を詠んだりし、机に突つ伏して号泣していました。兄妹2人して号泣していたわけです。

——その時代と家庭の情景が、あざやかに浮かんできますね。

樋口 兄は早熟だったこともあり、父に可愛がられていました。その兄も、東京大空襲の前日の1945年3月9日、16歳で亡くなりました。勤労動員で風邪をひいて、それが脳へいつて、急性結核性脳膜炎でした。私は長野の集団疎開先から葬儀に駆けつけましたけど、当然ですが、もうすでに冷たくなっていましたね。

——はあー、そうでしたか。
樋口 だから私の成育歴は、人の死に満ち溢れていたわけです。

——私の人生の悲しみの原点といつてもいい
——お母さん、お兄さんを戦前、戦中に亡くされ、戦後10年経たないうちにお父さんも亡くされたわけですね。そのあと、結婚されたご主人も？

樋口 そうなんです。結婚して姓が柴田から樋口に変わり、子どもも一人生まれてきました。結婚して6年半くらい経った昭和37年5月、夫は35歳でした。これは私の人生の悲しみの原点といつてもいい

——どんな方だったなんですか。
——どんな方だったんですか。

樋口 私より5つ上で、東大の工学部を出たキヤノンの技術者でした。見合い結婚です。結婚して子どもを生み、育てていたさ中の突然の死でした。夫が亡くなつて、私は拾つてもう形でキヤノンに勤め始めたんです。

——何年くらい勤めたなんですか。
——7、8年勤めていましたか

樋口 7、8年勤めていましたかね。勤めていた時から、働く女性の生き方や福祉・教育などの評論活動をしていて、それがだんだん忙しくなってきたので、辞めて評

——初代理事長も樋口さんですか。
——初代理事長も樋口さんですか。

樋口 そうです。50歳の時から、800人でしょうか。この会の特徴は、全国47の都道府県にグループのない県は一つもないということ。調査をしたりする時に動員力がある会なんです。地域の核になる人がいるということですね。

——大事な調査ですね。

樋口 それでは話は変わりますが、冒頭に出ました「過剰な延命治療を辞退する」との宣言、これはいつもからされているんですね。

樋口 私の人生で一番つらく悲しかったのは、先ほどもいました最初の夫が亡くなつた、私がやつと30になつたときでした。子ども一人抱えて無我夢中で働いて生ききました。それから十数年経ち、時間が流れると、悲しみも次第に薄れたりするもので、それで40歳代になつて、3歳上の新聞記者出身の新井直之と事実婚の関係になり、30年一緒に暮らしま

いと思いますね。兄についてはまだ若かつたし「可哀相だなあ」と思いましたけど、夫の場合は、ま

——どんな病気だつなんですか。
——病名は若年性糖尿病性昏睡ですね。「具合が悪い」と言つて死に満ち溢れていたわけですね。

——どんなんですか。
——どんなんですか。
——どんなんですか。

樋口 病名は若年性糖尿病性昏睡ですね。「具合が悪い」と言つて死に満ち溢れていたわけですね。

——どんなんですか。
——どんなんですか。

——どんなんですか。
——どんなんですか。

樋口 男女の生き方も変わらざるを得なくなつていくというわけですね。

樋口 そういうことです。「個人も企業も変わらざるを得ないんですね」と、ずいぶん抵抗も受けながら言つてきました。

——今、NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」の理事長をされています。いつ立ち上げたんですか。

樋口 1982年です。

——37年前になりますね。ずいぶん早くから来たるべき時代を予想し、活動を始めたんですね。

——これまでどんな調査を？

樋口 最近は高齢者の服薬に関する実態調査をしました。2か月間で5500人のデータが集まりました。今、その服薬の調査をもとにした要望書の作成中です。厚労省や医師会など関係団体に提出することになります。

——長い時間も自分の人生

——弱つてしまつた

樋口 頭に出ました「過剰な延命治療を辞退する」との宣言、これはいつもからされているんですね。

樋口 私の人生で一番つらく悲しかったのは、先ほどもいました最初の夫が亡くなつた、私がやつと30になつたときでした。子ども一人抱えて無我夢中で働いて生きました。それから十数年経ち、時間が流れると、悲しみも次第に薄れたりするもので、それで40歳代になつて、3歳上の新聞記者出身の新井直之と事実婚の関係になり、30年一緒に暮らしま

論の仕事一本になつたわけです。

——なるほど、そういう流れでしたか。

樋口 もうすでに、少子化と長寿化の問題が見えていました。女性は、生む子どもの数は少ないし子育てのあとも長生きする——それは、特に生む側の女性の人生を劇的に変えていくことになります。

そういう意味では私の予感は完全に当たって、評論活動が活発になりました。

——人口構造の劇的な変化の中で、男女の生き方も変わらざるを得なくなつていくというわけですね。

樋口 そういうことです。「個人も企業も変わらざるを得ないんですね」と、ずいぶん抵抗も受けながら言つてきました。

——人口構造の劇的な変化の中で、男女の生き方も変わらざるを得なくなつていくというわけですね。

樋口 そういうことです。「個人も企業も変わらざるを得ないんですね」と、ずいぶん抵抗も受けながら言つてきました。

——今、NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」の理事長をされています。いつ立ち上げたんですか。

樋口 1982年です。

——37年前になりますね。ずいぶん早くから来たるべき時代を予想し、活動を始めたんですね。

——これまでどんな調査を？

樋口 最近は高齢者の服薬に関する実態調査をしました。2か月間で5500人のデータが集まりました。今、その服薬の調査をもとにした要望書の作成中です。厚労省や医師会など関係団体に提出することになります。

——長い時間も自分の人生

——弱つてしまつた

樋口 頭に出ました「過剰な延命治療を辞退する」との宣言、これはいつもからされているんですね。

樋口 私の人生で一番つらく悲しかったのは、先ほどもいました最初の夫が亡くなつた、私がやつと30になつたときでした。子ども一人抱えて無我夢中で働いて生きました。それから十数年経ち、時間が流れると、悲しみも次第に薄れたりするもので、それで40歳代になつて、3歳上の新聞記者出身の新井直之と事実婚の関係になり、30年一緒に暮らしま



ひぐち・けいこ

1932年、東京生まれ。評論家、東京家政大学名誉教授、NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長。東京大学文学部美学美術史学科卒業後、時事通信社、学習研究社、キヤノン勤務ののち、評論家として女性問題、福祉、教育などの分野で評論活動を行う。1989年度の日本女性放送者懇談会賞を受賞。2003年東京都知事選挙に立候補したが落選。厚労省の審議会委員などを多く務める。

だから私の成育歴は人の死に満ち溢れていたわけです

樋口

いや、でもこの時すでに「ふたりつ子世代」が実現していましたし、遠からず少子高齢化はくると言わっていました。人口構造の変化をみれば、世の中の変化はわかるんですよ。私たちの世代は、都会でも平均4、5人のきょうだいがいました。そうすると、一家

有名な文学少年でした。斎藤茂吉の「死にたもう母」をもじつて歌を詠んだりし、机に突つ伏して号泣していました。兄妹2人して号泣していたわけです。

——その時代と家庭の情景が、あざやかに浮かんできますね。

樋口

いや、「人間存在の死」というように私は号泣しながら、一部始終をみていました。死んだ人に対する礼儀と言いますか弔いの大切さ、強く感じましたね。

その時、兄は5年生で、早熟で有名な文学少年でした。斎藤茂吉の「死にたもう母」をもじつて歌を詠んだりし、机に突つ伏して号泣していました。兄妹2人して号泣していたわけです。

——お母さん、お兄さんを戦前、戦中に亡くされ、戦後10年経たないうちにお父さんも亡くされたわけですね。そのあと、結婚されたご主人も？

樋口 そうなんです。結婚して姓が柴田から樋口に変わり、子どもも一人生まれてきました。結婚して6年半くらい経った昭和37年5月、夫は35歳でした。これは私の人生の悲しみの原点といつてもいい

——どんな方だったなんですか。
——どんな方だったんですか。

樋口 私より5つ上で、東大の工学部を出たキヤノンの技術者でした。見合い結婚です。結婚して子どもを生み、育てていたさ中の突然の死でした。夫が亡くなつて、私は拾つてもう形でキヤノンに勤め始めたんです。

——何年くらい勤めたなんですか。
——7、8年勤めていましたか

樋口 7、8年勤めていましたかね。勤めていた時から、働く女性の生き方や福祉・教育などの評論活動をしていて、それがだんだん忙しくなってきたので、辞めて評

——初代理事長も樋口さんですか。
——初代理事長も樋口さんですか。

樋口 そうです。50歳の時から、800人でしょうか。この会の特徴は、全国47の都道府県にグループのない県は一つもないということ。調査をしたりする時に動員力がある会なんです。地域の核になる人がいるということですね。

——大事な調査ですね。

樋口 それでは話は変わりますが、冒頭に出ました「過剰な延命治療を辞退する」との宣言、これはいつもからされているんですね。

——これまでどんな調査を？

樋口 最近は高齢者の服薬に関する実態調査をしました。2か月間で5500人のデータが集まりました。今、その服薬の調査をもとにした要望書の作成中です。厚労省や医師会など関係団体に提出することになります。

——長い時間も自分の人生

——弱つてしまつた

樋口 頭に出ました「過剰な延命治療を辞退する」との宣言、これはいつもからされているんですね。

した。そしてその死をきっかけに「延命治療を辞退する」とか「尊厳死」とかの問題に深く関心を持つようになったわけです。

— そうですか。新井さんが亡くなつたのは何年ですか。どんな最期でした?

樋口 1999年、大動脈瘤破裂でした。鼻腔から栄養を摂り、管から排泄する状態が3年3カ月続いた。右手の親指一本しか動かせない寝たきり状態で亡くなりました。

以前にも小さな破裂をしたことがあり、その時は立ち直って大学で教えることができました。彼は元気なときから、「オレはプロダクト」でなくなつたら生きてる気はしねえなあ」と言つてましたのは、「オレはプロダクトでなくなつたら生きてる気はしねえなあ」でした。

— 「……しねえなあ」が実にリアルですね。

樋口 彼の得意のセリフでしたね。

彼が大動脈瘤破裂で寝たきりになりました。先ほどお見せしました名刺の裏に「私の最期のあり方」を書くようになつたんです。最大のきっかけは彼の最期の状態ですね。

— 新井さんは、寝たきり状態になり、どんな思いだったんでしょう。

樋口 そこなんです。「プロダクティブでなくなつたら生きてる気はしねえなあ」と、彼は果たして最期まで思い続けていたのか、自分が寝たきりになつて、その強い思いは変わつてしまつたのか。そこは、私も問い合わせることになりました。学生や家族が来ると結構嬉しそうでした。人は弱つてしまつた長い時間も、まぎれもなく自分の人生ですから。

— なるほど。こういう状態で生きているのもいいのか、と思い始めたのかかもしれませんね。

樋口 そうそう、今になつて、そ
うじやなかろうかと思つたりもし
ますね。人は、元気でいた時と病
んで臥せつてしまつた時と、その
時その時で考えが変わるものです
よ。あの世に行つたら、聞き直し
てみましょう。

— 今日は、いろいろ踏み込んだ
お話を、ありがとうございました。
樋口 ありがとうございます。

「私の成育歴は人の死に満ち溢
れていた」と人生を辿り返す樋
口さんの様々な言葉は、深く考
えを促すものでした。プロダク
ティブでなくなつたら生きてい
る意味がない、と繰り返し話す
夫のリビングウイルは、どこま
で強固か? 人の考えは変わる、
心も揺れる。その真意をどう探
るのか、を問う言葉でした。

会報編集部・郡司 武

インタビューを終えて

「延命治療を辞退する」とか「尊
厳死」とかの問題に深く関心を持
つようになつたわけです。

— そうですか。新井さんが亡く
なつたのは何年ですか。どんな最
期でした?

樋口 1999年、大動脈瘤破裂
でした。鼻腔から栄養を摂り、管
から排泄する状態が3年3カ月続
いた。右手の親指一本しか動かせ
ない寝たきり状態で亡くなりました。

以前にも小さな破裂をしたことが
あり、その時は立ち直って大学で
教えることができました。彼は元
気なときから、「オレはプロ
ダクトでなくなつたら生きてる
気はしねえなあ」と言つてました
のは、「オレはプロダクトで
なくなつたら生きてる気はしね
えなあ」と、彼は果たして
最期まで思い続けていたのか、自
分が寝たきりになつて、その強い
思いは変わつてしまつたのか。そ
こは、私も問い合わせることに
しました。学生や家族が来ると結
構嬉しそうでした。人は弱つて
しまつた長い時間も、まぎれもな
く自分の人生ですから。



2018年「ご遺族アンケート」結果 93%の方がLWは受け入れられた

揺らぐ家族の想いに安心と平穏が……

「『尊厳死協会のカードは自分の美学だ』という夫でした」

— そんな妻の声もありました。

「ご遺族アンケート」に寄せられた様々な声を紹介します。

父が会員であることで、ただ単に延命しないことだけではなく、

自信を持つて最期に向き合う
ことができました。(長女)

ただ□約束だけでなく、
協会の会員であるという証明は、
とても堂々たるもの
だと思います

(長女)

● 夫(75歳)は家の療養を決め、在宅診療の医師にLWと「私の希望表明書」を渡してしつかり話し合いました。医師にとつては初めて見る書面だったそうですが、きちんと書面で確認したこと

で前向きに対応することができます、とおっしゃっていました。

医療者とケアの方々は、本人の「希望表明書」に沿つて温かく対応し

て下さいました。(東京都)

● 妻(82歳)の希望通りの最期だったことに、夫として、家族として、安堵の気持ちで妻の死を受け入れていましたが、日が経つにつれて、別離の悲しみや空虚感とともに、もう少し早く気がついて対応していました。本人も家族も明確に尊厳死を希望し、意思表示をしていましたにもかかわらず、現実とな

ると心が揺れ、難しいものだと反省した次第です。尊厳死宣言を明確に表しておくことは、残された家族の心の迷いを収め、和らげるうえで、大きな支えになると実感しました。(茨城県)

● 夫(82歳)の最期は、身内が全員、夫のLWを読んでいましたので、誰も延命措置を言い出さず自然な大往生ができました。しかしある男性から「私は協会には絶対譲りを望むからだ。加入しているな入らない。最高の医療と最大の看護を望むからだ。加入しているならえないだろうからな」と言われました。十人十色だと、しみじみ思いました。(栃木県)

開業医であつた夫にとつても、

長い間心の拠り所としていました

妻

リビング・ウイルの趣旨に従つた医師の誠意ある対応に、

家族として感謝を申し上げる以外の言葉はありません

夫

このカード（尊厳死協会会員証）は自分の美学だ、
という夫でした

妻



● 眠るように逝つた夫（93歳）が亡くなる15日前に書いた手紙に、「波乱万丈の生き方をし、いろいろな苦労もなんとか乗り越えここまでこられ、ほんとうに幸せです。『終わり良ければすべてよし』といいます。皆様有難うございました。」とありました。（東京都）

● 医師から今後の治療の説明を受けた際、私ども夫婦は尊厳死協会に入っていますと告げましたら、医師は静かにうなずかれました。夫（83歳）は日頃から「俺はポツクリ逝く」と言うのが口癖で、その都度たしなめっていましたが、「俺の言つたとおりだろう！」という声が聞こえてくるようです。（茨城県）

● 夫（81歳）は薬剤師という職業柄、機会があればリビング・ウイルの話をし、興味を持った方にはパンフレットを取り寄せ、講演があれば声かけし、陰ながらLWの普及啓発に尽力していました。「ピンピンコロリ」が理想だった夫は、発病から1日と3時間で帰らぬ人となりました。今はさすが！と褒めてあげたいです。（沖縄県）

● 急に発熱した夫（87歳）が治療

を受けていた病院の掲示板に、「日本尊厳死協会に入会していく、過度な延命治療を考えていなの方は申し出てください」という貼紙が掲示されていました。本人も妻の私も望んでいた通りの対応で、嬉しく思いました。（愛知県）

● 本人（56歳）の意思の強さを感じています。乳がんは早期発見出来れば治せたと思いますが、本人が病気を受け入れ、痛みを我慢し、終末期になつてやつと家族に伝えられた状況です。LW、葬儀、すべて本人の望みに従いました。やはり少しでも長く生きていてほしかつた。素直な気持ちです。（神奈川県）

● 医療者や施設、そして一緒に暮

らす家族の皆が義母（88歳）の意

思を理解していました。しかし離れて暮らしている子どもが「親にはずっと生きていてほしい」と主張した結果、延命処置を施されました。親に生きていてほしいとは誰でも思うことですですが、あの場面では「苦しませるのでやめて下さい」とは、嫁の立場では言えませんでした。（富山県）

リビング・ウイルが果たした役割は

認めています。

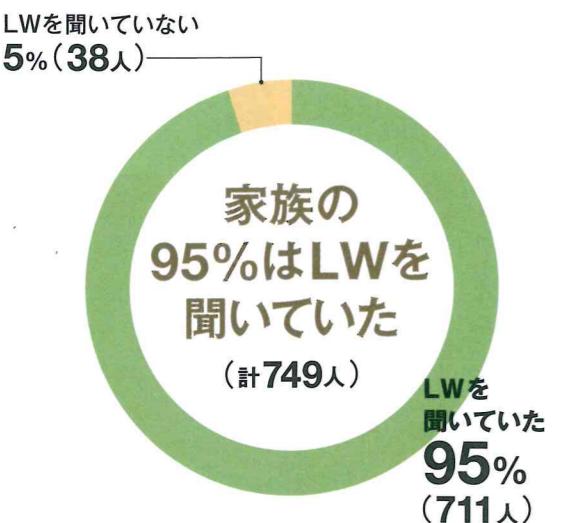
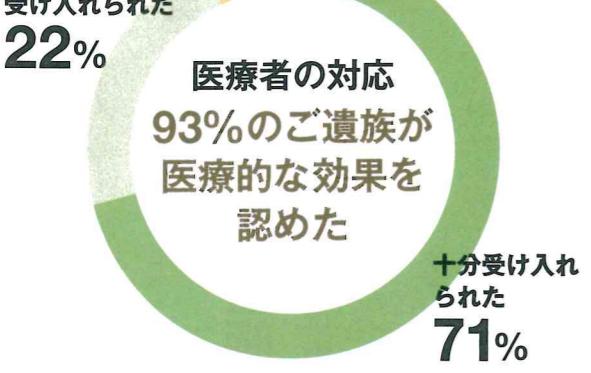
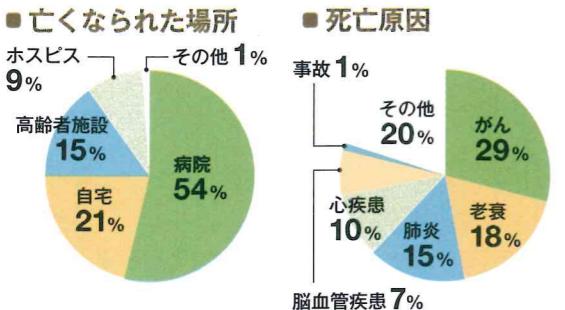
協会では、亡くなられた会員のご遺族に協力していただき、リビング・ウイル（LW）が役立ったかどうかをアンケート調査しています。2018年は749人から回答をいただきました。

626人（84%）がLWを医療者に伝えていて、「LWは受け入れられましたか」との質問には、「十分受け入れられたと思う」が71%、「どちらかといえば受け入れられたと思う」は22%で、合計93%のご遺族がLWの効果を

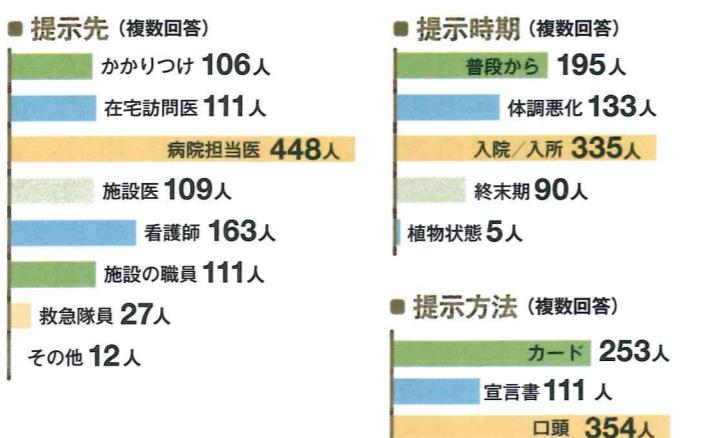
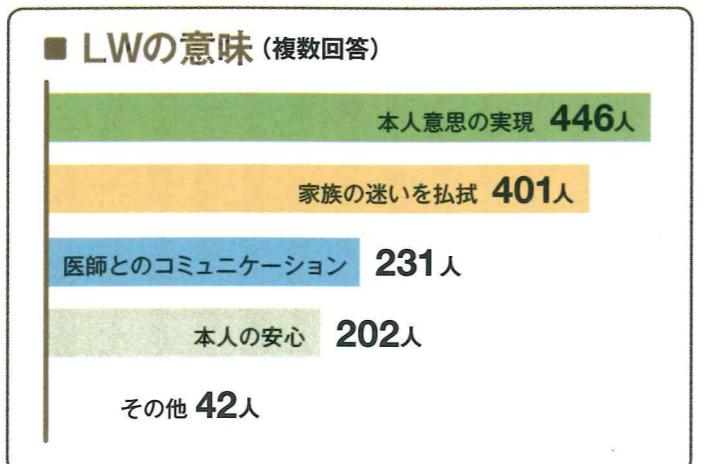
認めています。

一昨年からスタートした「LWはご家族にとってどういう意味を持つたか」を伺うアンケートは以下です。複数回答で一番多かったのは「本人の意思を実現出来た。（446人）」、次に「医療方針を決定するに当たり、家族にとって迷いがなくなった。（401人）」、さらに「医師とのコミュニケーションに役立った（231人）」、「LWを持っていることで本人が安心して暮らせた（202人）」でした。

● 今年からスタートした「LWはご家族にとってどういう意味を持つたか」を伺うアンケートは以下です。複数回答で一番多かったのは「本人の意思を実現出来た。（446人）」、次に「医療方針を決定するに当たり、家族にとって迷いがなくなった。（401人）」、さらに「医師とのコミュニケーションに役立った（231人）」、「LWを持っていることで本人が安心して暮らせた（202人）」でした。



アンケートにご協力ください、ありがとうございました。



LW受容協力医師制度の展望

ルポ——「最期はどうありたいか。どう生きたいか」を

昨秋に受容協力医師になつたばかりの松浦医師は、地域すでに終末期医療の連携推進に取り組んでいた。『終活支援ノート』を作成した足立誠司医師らの思いとともにルボする。

「～もしもの時は～わたしの心づ
もり」というタイトルの『終活支
援ノート』がある。発行は鳥取市立
の長寿社会課。この20ページほど
の小冊子を編集したのは鳥取市立
病院の足立誠司医師（48）や在宅
医療介護連携推進室の廣山恵さん
（看護師・社会福祉士）たちだ。

「この冊子、みてください。2ページにまたがる『わたしの思いや考え方』が3回出てくるんです。まったく同じ内容で。当然、年月日の記入欄もあります」

最期はどこで、どんな治療が望みか、食べられなくなつた時どう

4階にあり、メンバーは廣山さん、市職員2人を含めて4人。カバーするエリアには、鳥取市周辺の町のほかに県境を越えた兵庫県の新温泉町も入る。救急車を利用する頻度や、これまで形成されてきた文化圏・生活圏を勘案したという。この圏内のどの医療施設に行つて



「鳥取は過疎化して夫婦共働きが多いため、家庭に介護力がなくなり、施設が多いんです」と話す松浦医師

をかけ、それに応じる形で松浦医師が登録した。「受容協力医師認定証」が診察室の壁に掲げられていた。

受容協力医師になつてみての尊厳死協会への思いを聞いた。

「私たちの活動と尊厳死協会の普及・啓発活動は重なり合うものですよね。どちらも、より多くの人に『最期はどうありたいか』という意思をもつてもらうための活動でしょ。それにはまず患者さんと一緒に考えること。そこから始まると思っています」

もケアが引き継がれるようになつてゐる。住民は、介護施設などいろいろな施設を転々とし、それらに依存しながら、『最後』を生きていく。今や、一病院だけで完結する時代ではない。医療や介護だけ

ここ鳥取で生まれ育った松浦医師は、防衛医大に進んだ。卒業後アメリカの陸軍病院などへの留学も含め、9年間の在職義務年限を超える11年半を防衛省関連に勤務し、さらに2年間、制服を着て自

にかぎらない「生活全般を基盤とした連携」が求められる時代だ。「この地域は三方が山に囲まれて、昔からまとまりがあるんです。医師会もこの地域で一つですかね、いろいろとやりやすい。かかりつけ医の存在も残っています」と公務医師。



浦医師の後に立つ足立医師と
川さん

してほしいか？あなたの代理として意思決定してくれる人は？などを記入しておくページだ。1回、2回とめくつてみる。同じ内容・文言が続く。意思表明が1回だけだとどういう方向にあるのか真意がわからない、人の思いは常

に変化し揺れ続けるもの、という認識を前提に、こうした編集にしたという。

DMの勧誘に応じ 受容協力医師二

受容協力団體は
昨年の秋に受容協力医師に登録
した鳥取県東部医師会会長の松浦
喜房医師(62)も、足立医師らとど
もに中心になつて、この『終活支援
ノート』の作成や在宅医療介護連
携推進室の立ち上げに関わつた。
推進室ができたのは4年前の平

衛官として「お札奉公」もしたと
いう異色の経歴。自衛隊除隊後は
すぐに、先に妻が開業していた今
の鳥取駅近くの栄町クリニックで
診療を始めた。

なつたわけです」
連携推進室の活動は活発だ。廣山さんたちと年に60回ほどの啓発活動を行なっている。松浦医師は、こうした講演会や学習会などで、折に触れて終末期医療について意見を交わし合う。

「施設によつては、自分たちの施設で死なれては困るというようなところもまだあるんです。介護士が慣れていないとか、誰を呼んだらいいのかわからないとかの理由なんですが、そんな時は、『亡くなる』というのは生きていることの延長にあるわけで、何ら不自然なことでも不名誉なことでもないんですよ」とお話ししてゐんです」



鳥取駅から5分ほどにある栄町
クリニック。上階は自宅

季節を感じさせる一枚の写真と
懐かしい唱歌でつづるページです

四季の歌

第八回

花

—その風景と背景



錦おりなす長堤に
くるればのぼるおぼろ月。
げに一刻も千金の
ながめを何にたとふべき。

(歌曲集「四季」明33・11)より

作詞は武島羽衣(1872~1967年)、作曲は瀧廉太郎(1879~1903年)。武島は東京音楽学校などで教授(国語)を務め、御歌所寄人も歴任した新詩壇の開拓者。瀧は言うまでもなく、明治の西洋音楽黎明期における日本を代表する音楽家。「花」という曲名だが、「隅田川」と間違って覚えている人も多いだろうか。日本のどのかな春ののびやかさを歌つた代表的な楽曲の一つだ。歌曲集「四季」には、第1曲「花」、第2曲「納涼」、第3曲「月」、第4曲「雪」があるが、春の「花」以外、演奏されることはほとんどない。「何にたとふべき」は、何にたとえたらいいだろう、この素晴らしい春の眺め。「見ずや」は、この眺めを見ないでいられようか、の反語。「げに」は、まさに、いかにも、などの意。どこか心が浮き立つような春の躍动感、隅田川の活気、わくわく感が、テンポのいいメロディーとともに明るく立ち上つてくる。

見ずやあけぼの露浴びて、
われにもの言ふ桜木を、
見ずや夕ぐれ手をのべて、
われさしまねく青柳を。
春のうららの隅田川、
のぼりくだりの船人が
櫂のしづくも花と散る、
ながめを何にたとふべき。

関東甲信越支部 | ☎ 03-5689-2100 ✉ kantou@songenshi-kyokai.com

公開講演会 in 長野

日程〇7月12日(金)午後1時半～4時半
会場〇長野市ホクト文化ホール・小ホール
JR長野駅下車 徒歩12分
☎026-226-0008

テーマ「がん性腹膜炎とリビングウイル」

講師〇長尾和宏
日本尊厳死協会副理事長 医学博士
テーマ「住み慣れた地域で人生を安らかに全うするには」
講師〇井 益雄
い内科クリニック院長 医学博士
定員〇300人
(無料・申込不要・先着順)

《地域サロン》のお知らせ

お茶を飲みながらお話する集いです

サロン in 新潟

日程〇4月13日(土)午後2時半～4時半
会場〇コーポシティ花園「ガレッソ」ホールC
(新潟市中央区花園1-2-2)
JR新潟駅万代口から連絡通路で直結
徒歩3分 ☎025-248-7511
定員〇36人(無料・申込不要・先着順)

サロン in 立川

日程〇4月26日(金)午後2時～4時
会場〇たましんRISURUホール(立川市民会館)
第2会議室(立川市錦町3-3-20)
JR南武線西国立から徒歩7分、
JR立川駅から徒歩13分 ☎042-526-1311
定員〇30人(無料・申込不要・先着順)

サロン in 東大島

日程〇5月8日(水)午後2時～4時
(開場午後1時半)
会場〇東大島文化センター第3会議室
江東区大島8-33-9 ☎03-3681-6331
都営地下鉄新宿線東大島駅下車 徒歩5分
定員〇18人(無料・申込不要・先着順)

地域の
みなさんへ

リビング・ウイル「出前講座」はいかがですか

●ご依頼により講師を派遣します ●会場のご用意をお願いします ●お問い合わせは支部までどうぞ

サロン in 本郷

日程〇4月12日(金)、27日(土)、
5月10日(金)、25日(土)、
6月14日(金)、22日(土)。
いずれも午後1時半～3時
会場〇支部事務所 文京区本郷2-27-8 太陽館ビル
5階 日本尊厳死協会内(地下鉄丸ノ内線か
大江戸線本郷三丁目下車すぐ)電話予約が必
要です。支部までお願いします。

関東甲信越支部 活動報告

2人の講演に大きく頷く参加者

3月2日(土)午後、さいたま市大宮のソニックシティ市民ホールに鈴木裕也・尊厳死協会副理事長と川口市内で開業している杉浦敏之・支部理事を迎えて、公開講演会を開催しました。「穏やかな最期を迎えるために」のタイトルで講演した鈴木氏は、テレビ番組や脚本家の橋田寿賀子さんの実例を挙げて、尊厳死と安楽死の違いや、「死」を学ぶことが減ってきた日本社会について分かりやすく話されました。

続いて「住み慣れた地域で人生を安らかに全うするには」のテーマで講演された、在宅医でもある杉浦氏は、往診と在宅診療の違い、病院と在宅での診療内容の差やそれぞれのメリット・デメリットについて話されました。人間の死は避けられない以上、本人や周囲がどんな治療を希望するかあるいはしないかを選択したとしても、何らかの後悔や悲しみは残る、とし、要点として、①「死」を遠ざけずに話すことがじつは健康的であること。②できるだけ「かかりつけ医」を持つこと。③普段から家族や親しい人とACP(人生会議)について話し合っておくこと。これらがとても大切で必要であると話されました。



北海道支部

| ☎ 011-736-0290 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

公開講演会 in 札幌

日程〇5月18日(土)午後1時半～
会場〇札幌エルプラザ(JR札幌駅北口近く)
札幌市北区北8条西3丁目

テーマ「人生会議を成功させるために」

講師〇江端英隆 北海道支部長
定員〇300人(無料)

テーマ「終末期と尊厳死について」

講師〇宮本正尊 天融寺住職
定員〇30人(無料・予約不要)
お問い合わせは支部事務局へ

旭川上川地区懇話会

日程〇5月23日(木)午後7時～8時半
会場〇旭川市民活動交流センター CoCoDe 2階
会議研修室1・2(旭川市宮前1条3-3-30)

テーマ「リビングウイルについて」

定員〇50人(無料・要予約)5月17日までに要申込。
お問い合わせ〇懇話会事務局 ☎0166-34-0488

尊厳死協会の「人生会議」

日程〇第1回(がんと緩和医療①)4月16日(火)、
第2回(がんと緩和医療②)5月24日(金)、
第3回(救急医療と尊厳死①)6月18日(火)、
いずれも午前10時～正午

会場〇札幌エルプラザの4階研修室
(JR札幌駅北口近く)

定員〇先着30人(第3回は20人。無料・予約不要)

帯広とかち定期講演会

日程〇5月18日(土)午後1時半～
会場〇とかちプラザ会議室(帯広市西4条南13丁目1)

テーマ「終末期の在宅での医師としての対応」

講師〇酒井俊 さかい総合内科院長
お問い合わせは支部事務局へ(無料・予約不要)

石狩南部地域懇話会前期研修会

日程〇5月26日(日)午後1時半～3時半
会場〇千歳市社会福祉協議会(予定)

関西支部

| ☎ 06-4866-6365 ✉ kansai@songenshi-kyokai.com

サロン交流会

テーマ「最期の望みをかなえるリビング
ウイルノート」～カフェしませんか～

日程〇5月25日(土)午後2時～4時
会場〇関西支部(担当は竹内理事)

関西支部 活動報告

大盛況だったお二人の講演

黒田裕子記念 神戸フォーラム

日程〇7月27日(土)午前10時～
会場〇JEC日本研修センター神戸元町
ジエム(ジェムズ確認)ビル2階

※今年も日本ホスピス・在宅ケア研究会のフォ
ラムに参加します。

詳しい情報は関西支部HPでお知らせいたします。

リビング・ウイルサロン

リビングウイルのこと、そのほか何でも。お気軽に
お茶を飲みながらおしゃべりしにお越しください。

日程〇毎月第2、4火曜日 午後1時半～4時
4月9日、23日。5月14日、28日。
6月11日、25日

会場〇関西支部

2月2日の土曜日、奈良市中部公民館5階大
ホールで開催された尊厳死協会関西の「なら設立
記念 市民公開講座」には、300人(定員320人)を
超える方々が参加され、大盛況となりました。

今回の狙いは2つ。協会の「リビング・ウイル」
「尊厳死」を啓発・実現していくためには、地域に
応じた情報サービスの提供ができるような協会
でなければならないこと。今回、なら会長に就任
した宮城信行医師が「転ばぬ先のリビングウイ
ル」という内容で講演されました。

そしてもう一つは、終末期医療をみんなで何度も
話し合って決定するACPという手法の理解で
した。「ACPつまり人生会議って、インフォームド
コンセントや施設・在宅におけるカンファランス
と何が違うのか」と訪問看護師の現場の声もあり
ました。その「人生会議」を長尾和宏・尊厳死協会
副理事長が講演で問題点を指摘しました。何よりも
本人意思重視が基本。大事なのは時間をかけて
話し合うプロセスであると、強調されました。

東海北陸支部

052-481-6501 tokai@songenshi-kyokai.com

リビングウイル懇話会 in 静岡

日程○5月25日(土)午後1時半～
会場○静岡音楽館AOI 7階ホール
(JR静岡駅北口すぐ) 054-251-2200

講演○「人生の終末期を自分らしく
迎えるために」

アドバンス・ケア・プランニングを
3者(患者・家族・医療介護関係者)で

講師○平川仁尚 名古屋大学大学院
医学系研究科准教授
定員○300人(無料)



北陸地区講演会

日程○6月2日(日)午後1時から
会場○石川県文教会館(金沢市尾山町) 尾山神社
バス停下車徒歩2分 076-262-7311

テーマ「地域におけるアドバンス・
ケア・プランニング」

講師○西川満則
国立長寿医療研究センター
緩和ケア診療部医師

定員○100人(無料)

意見交換○支部理事(喜多正樹、川島和代)を中心に



地域サロンへどうぞ

日程○4月23日(火)、6月25日(火)午後1時半～3時
会場○名古屋市中村区の青木記念ホール
(地下鉄中公園駅から徒歩5分)

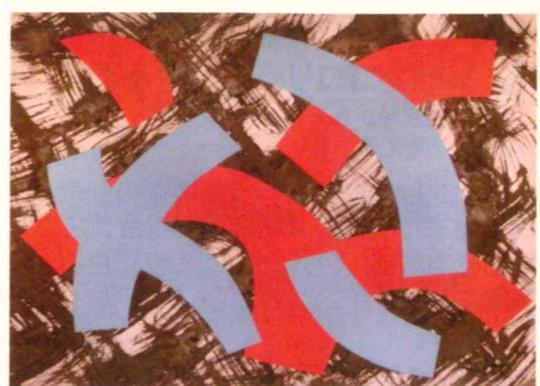
終末期医療、在宅介護などを語り合いませんか。
希望者は支部までご連絡を。無料

協会会員 投稿ギャラリー

伊藤絹子さん 79歳(宇都宮市)



Bitter smile



Dancing

東北支部

022-217-0081 tohoku@songenshi-kyokai.com

春の公開講演会

日程○5月12日(日)午後1時半～3時半

会場○仙台市福祉プラザ「ふれあいホール」
(地下鉄南北線五橋駅から徒歩3分)

挨拶○「尊厳死協会をめぐる動向～ACP(人生
会議)・公益法人化～」(橋村 裏・支部長)

講演○「穏やかな看取り
～在宅医療のコツ 伝えます」

講師○石澤 誠 弘前市・石澤内科胃腸科院長
尊厳死協会東北支部理事

定員○先着300人(無料)

お問い合わせは支部事務局へ

東北支部 活動報告

「尊厳死」登録と「法定遺言書」

人生の最終段階における自分の意思表示を「公正証書」でおこなう人が増えている——と、このところ、マスコミなどに取り上げられることが多くなった。日本公証人連合会などの発言も相次いでいる。本当にそうなのだろうか。日本尊厳死協会の「リビング・ウイル」よりメリットがあり、公正証書の方がいいのか。これは最近の現象なのか。

今年1月の「仙台駅横リビング・ウイル 交流サロン」では、協会の「尊厳死登録」と「公正証書」との違いを、真正面から取り上げ、話し合った。難しい法律用語もあり、参加者は少ないだろうと予想したが、大学の元教授、公正証書で「40万円を請求された」という人なども参加し、関心は高かった。

結局、「公正証書」は相続や遺産分割などの点では有効さが際立つが、「尊厳死」を尊重し、生き方を考え、家族ともども人生を語るのには、「尊厳死登録」の有効性と簡便性が優位にあることが浮き彫りにされた。人生の最終段階を考える意義も大きいに加え、経費面だけでなく「尊厳死登録」は総合的にみて「いい」と再認識された。

(支部長・橋村 裏)

第32回「仙台駅横 リビング・ウイル 交流サロン」

日程○4月19日(金)午後2時～3時半

会場○「せんだいアエル」6階特別会議室
(JR仙台駅西口 徒歩3分)

テーマ「看取りが変わる、最期が変わる
～東北支部4半世紀の歩みから」

お説明合って、どなたでもどうぞ。参加費無料

中国地方支部

082-244-2039 chugoku@songenshi-kyokai.com

リビングウイルノート・セミナー開催

協会から発売となった「リビングウイルノート」。支部理事と一緒にノートを見つめながら、自分や家族についての最終段階の医療をどう選択するかなど、ゆっくりと考えてみませんか？

日程○4月19日(金)午前10時40分～12時10分

5月17日(金)午前10時40分～12時10分

会場○県民文化センター 5階503号室
(広島市中区大手町1-5-3)

定員○10人(事前参加申込みが必要。支部事務局
へ直接電話かメールで)

参加費○1,000円(『リビングウイルノート』の書籍代金。すでにお持ちの方は無料)

中国地方支部 活動報告

半数以上が「老衰への意識が変化」

公開講演会で毎回実施している聴講後のアンケート集計による結果です。1月27日(日)に開催した、広島市立安佐市民病院副院長の土手慶五

医師の「あなたにとって老衰とはなんですか？」の講演会。100人定員の会場は超満員でした。講演内容についての詳細は支部ホームページにアップしています。ここでは、アンケートに記入いただいた感想や意見の中から代表的なコメントを紹介します。

①80路の私にはこれから余生の生き方が自分自身で考えられるようになります。②LW受容協力医師の数が増えることを望みます。③2020年のオリンピックの次の大阪万博に行くことが目標です。④広範囲にLWについて考えるヒントをいただきました。⑤知人等に紹介してまた聞きたいので、是非講演会を開催してほしい。⑥高年齢なのでお話を体内に充分入り込みました。⑦実績に基づく素晴らしいお話を聞き安心しました。⑧大変によい話を聞き、明日からの日々を楽しく大切にしたいと思います。⑨母を誘って参加しました。人生会議について理解してくれたと思います。⑩生きる喜びが沸いてきました。楽しい話の中に真実がありました。

コメント欄への記入率も58%で過去最高でした。

(支部長・正木文治)

私の希望表明書

私は、協会発行の「リビング・ウイル（終末期医療における事前指示書）」で、延命措置を受けたくないという意思をすでに表明しています。それに加えて、人生の最終段階を迎えた時に備え、私の思いや具体的な医療に対する要望をこの文書にしました。自分らしい最期を生きるために「私の希望」です。

記入日 年 月 日 本人署名

キリトリ

希望する項目にチェックを入れました。

1. 最期を過ごしたい場所（一つだけ印をつけてください）

- 自宅 病院 介護施設 分からない
その他 ()

2. 私が大切にしたいこと（複数に印をつけて構いません）

- できる限り自立した生活をすること 大切な人の時間を十分に持つこと
弱った姿を他人に見せたくない 食事や排泄が自力でできること
静かな環境で過ごすこと 回復の可能性があるならばあらゆる措置を受けたい
その他 ()

※以下「3」と「4」は、「ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りします」という表現では伝えきれない希望や、「止めてほしい延命措置」の具体的な中身を明確にするためのものです。

3. 自分で食べることができなくなり、医師より回復不能と判断された時の栄養手段で希望すること（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

- 経鼻チューブ栄養 中心静脈栄養 胃ろう 点滴による水分補給
口から入るものをお食べる分だけ食べさせてもらう

4. 医師が回復不能と判断した時、私がして欲しくないこと

- （複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）
心肺蘇生 人工呼吸器 気管切開 人工透析 酸素吸入
輸血 昇圧剤や強心剤 抗生素質 抗がん剤 点滴

5. その他の希望

[]

【用語の説明】

- 心肺蘇生：心臓マッサージ、気管挿管（口や鼻から気管に管を入れる）、電気的除細動、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与などの医療行為。
- 人工呼吸器：自力で十分な呼吸ができない状態の時に、肺に機械ポンプで空気や酸素を送り込む機器。マスク装着のみで行う場合もあるが、重症の際はチューブを口や鼻から入れる気管挿管を行う。1~2週間以上続ける場合は、のどに穴を開ける気管切開（喉仮の下から直接気管に管を入れる）をしてチューブを入れる。
- 胃ろうによる栄養補給：内視鏡を使い、局所麻酔で胃に管を通して栄養を胃に直接注入すること。

四国支部

089-993-6356 shikoku@songenshi-kyokai.com

四国支部 活動報告

事前指示書の必要性

高知講演会が2月3日、「人生の最終段階において本人の意思に基づく医療・ケアが行われるために、どのような準備が必要でしょうか」と題して行われた。講師の北村龍彦高知代表（四国副支部長）が、厚労省が、地域包括ケアシステムや「人生会議」の呼称ACPなど、本人の意思を尊重する終末期医療に本腰を入れ始めたことを説明。私たちはこれに呼応して、どのように生きどのように終わりたいかを自己決定し、事前指示書を準備しておく必要性を訴えた。

後半の懇談会では「私の希望表明書」を使い、人生の最終段階に備え自分の思いや具体的な医療に対する要望を書いてもらった。

同じく2月3日、松山市男女共同参画推進センター（コムズ）主催の約20講座の一つとして「一般公開講演会」を参画した。「苦しまず、家族を困らせないで逝くには？」と題して、野元正弘・四国支部長が厚労省の終末期医療の現状やガイドライン、人生会議（事前指示書-ACP）などを解説し、家族・近親者との話し合いの必要性を訴えた。

一般公開講演会

日程○6月9日（日）午後1時半～3時

会場○愛媛県美術館講堂（松山市堀之内）

講師○近藤 誠 西条市教育委員会 人権教育課課長

テーマ「家族が認知症になつたらどうしますか」

～認知症の在宅介護と今後の課題～

無料・事前予約不要。お説明合わせのうえお越しください。

「リビングウイルノート講習」

～LWを学び、ノートをつくりましょう～

日程○4月5日、5月17日、6月7日

（いずれも金曜日の午後1時半～3時半）

会場○支部事務所（松山市大手町）

趣味あれこれ会

絵手紙教室を楽しみましょう。無料。どなたでも歓迎。

日程○4月19日、5月17日、6月21日

（いずれも金曜日の午後1時半～3時半）

会場○支部事務所（松山市大手町）

九州支部

092-724-6008 kyushu@songenshi-kyokai.com

九州支部 活動報告

宮古島での出前講座実現

2月22日、宮古島の尊厳死協会会員からお声がかかる、宮古島での出前講座が実現しました。演題は「高齢者・認知症の方の意思決定支援～人生の最終段階における医療・ケア決定 本人の意思確認の仕方や支援について～」という長いタイトルでした。

講師の上間一医師が、これまで体験してきた緩和ケア医療や在宅での看取りの事例を通して、この医療は正しかったのか、終末期の判断は病気によって違うので終末期の時期決定は難しいことなどを会場の参加者に問い合わせました。またACPについて解説し、最近発行した尊厳死協会の『リビングウイルノート』を人生会議の整理に活用しませんか、と紹介し、直接販売もしました。宮古島の在宅を支える専門職の方々に尊厳死協会を知っていただく良い機会になったと思います。

第6回リビング・ウイル研究会九州地方会

日程○6月8日（土）午後3時～5時半

会場○長崎ブリックホール国際会議場

長崎市茂里町2-38 JR浦上駅から徒歩5分 095-842-2002

第1部「リビングウイルについて」

講師○満岡 聰 尊厳死協会理事・さが会長

第2部「ピンピンコロリってできるの？」

～在宅看取りからアドバンス・ケア・プランニングを考える～

劇団「ザイタク」が過去3回行った演劇の録画を参加者とともに視聴し、みんなで語り合う。

司会進行○桜井隆（さくらんクリニック）、白山宏人（医療法人拓海会 大阪北ホームケアクリニック）

定員○426人（無料、予約不要）

日本尊厳死協会の公益認定申請に対する不認定処分取消訴訟について

協会の勝訴後、国が控訴しました

協会は2015年、終末期の過剰な延命治療の拒否を意思表示する「リビング・ウイル」の普及・管理事業は「公益目的事業である」として公益認定を申請しましたが、翌2016年、国は、リビング・ウイルの登録管理事業などを公益目的事業と認めると、医師の医療判断などに大きな影響を与える可能性がある、として不認定処分としました。

これに対し、協会は「不認定処分の取消」を求める訴訟を起こし、2019年1月18日、東京地方裁判所は、「当協会を公益認定しない」という国の処分を取り消す判決を下しました。不認定処分を違法とする当協会の主張が全面的に認められたかたちです。(下の

表・図を参照)

裁判の中で国は、「当協会のリビング・ウイル登録管理事業を公益目的事業と認める」と医師等の判断に影響を与え、医師が法律上不安定な立場に置かれる可能性がある」との主張を繰り返しましたが、裁判所は、法律やガイドラインに沿って当協会の事業目的や手段を詳細に検討したうえで、当協会の事業は公益目的事業として認められ、それを認めることで医師等に法的な不利益を与えることもない、と結論づけました。

この判決を不服として国は1月31日、控訴し、裁判は高等裁判所へと続きます。

日本尊厳死協会の公益申請に係る不認定処分取消等訴訟の結果について (図表は土肥法律事務所作成) (東京地方裁判所平成31年1月18日判決)

事案の概要



裁判所の判断 [東京地裁平成31年1月18日判決]

原告の申請事業は公益目的事業に該当する。よって、内閣総理大臣がした不認定処分を取り消す。

(1)原告の申請事業は公益目的事業といえるか。→いえる

公益に関する認定法別表各号に
掲げる種類の事業



不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの

公益認定等委員会発行のガイドライン中の「公益目的事業のチェックポイント」を参考に判断

①事業目的

登録管理事業の直接の受益者は会員に限られるが、普及啓発、調査研究・提言事業と相まって、受益の効果が広く社会全体に及ぶことを積極的に意図しており、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することが主たる目的となっている。

②事業の合目的性

*事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切なものになっているか
受益の機会の公開
満15歳以上で意思表明能力のある者であれば誰でも会員となれる、そのことはHP等で公表されている。会費も不相当地高額ではない。その結果、11万人を超える多数の会員がいる。

事業の質を確保するための方策

宣言書の改訂には、医師等の専門家が関与し一定の質を保ったものになっている。これは、多数の受容力医師の存在、現医師会会長の発言、国の報告書や論文に同宣言書が引用されていることからも裏付けられる。

一定の者に与える 不利益の有無、程度

申請事業が不特定かつ多数の者の利益を増進する反面、一定の者に不利益を与える場合には、その事業内容や手段は、事業目的を実現するのに適切なものとはいえない。

(2)医師等に与える影響の有無、程度について→医師等に対して被告主張のような影響を与えることはない

不認定理由①に対応

公益認定は、医師に、「内閣総理大臣が同事業を不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであると認定した」という認識を与えるもの。それを超えて、国が延命治療の中止等について特定の立場を支持している等ということを意味するものではない。

不認定理由②に対応

原告の事業も、目的も、延命方向の希望・方針を否定するものではない。終末期における治療方針の決定においては、患者の意思が尊重されるべきであるとの考え方は、様々なガイドライン等において一致している。患者が意思表明できないときでも、リビング・ウイルが存在し、その意思が確認できたときは、医師等はその意思を尊重すべきであるとの考え方が一般的であり、このことは公益認定の有無に左右されない。

不認定理由③に対応

延命措置の中止等の要件について確立した司法判断の枠組みがなく、医師等が常にその行為が法的責任に問われる可能性の下で慎重な判断を求められる現状は、本件公益認定の有無にかかわらず存在する。リビング・ウイルが存在するからといって、ガイドライン等に定められた意思確認のプロセスを省略してよいものとされているわけではない。自治体発行や公正証書を用いた場合と、医師への影響は異ならない。

ACPの愛称が「人生会議」に! リビング・ウイルが不可欠です

昨年の11月、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の愛称が「人生会議」に決まりました。国民一人ひとりの生活の中に必ずしも浸透していなかった「ACP」を馴染みやすい愛称にしたいと厚労省が公募し、その中から選ばれたものです。

この「人生会議」と尊厳死協会のリビング・ウイルはどう違う、どのように活用すればいいのでしょうか。

Q まずACPをわかりやすく説明してください。

A ACPとは、自分や大切な人(家族など)の「人生」や「もしもの時」を考え、今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合うことです。そして、その人が今より大切に最期まで自分らしく生きることを支援するのを目的としています。内容は、その人がどこで誰と過ごし、どのようなケアを受けたいかなどですが、繰り返し話し合うこと、なぜそう考えるかの価値観を重視します。もともと医療者の間で使われていた言葉でしたが、ここ数年で一般にも広まっています。

Q そのACPをより親しみやすい愛称に、ということで「人生会議」になったわけですね。

A 「意味が分かりやすく日常生活に浸透していくことが期待できる」「家族や信頼できる人たちと輪を囲んで話し合うイメージが湧く」というような理由で、浜松の看護師さんが提案した「人生会議」に決まりました。

Q 「人生会議の日」もあるとか。

A 11月30日を「いい(11)看取り(30)」にかけ、その日を人生の最終段階における医療・ケアを考える日としました。もちろん「人生会議の日」以外にも、家族や親せきが集まる正月やお盆に、一緒に人生の最終段階における医療・ケアについて話し合ってみることが大事です。ぜひお勧めします。

Q 尊厳死協会のリビング・ウイルと「人生会議」はどう違うですか。

A リビング・ウイルは、過剰な延命治療は受けたくない、しかし、苦痛を取る緩和医療はしっかりと行なってくださいという自発的な意思表明です。「人生会議」は、もう少し幅広く、本人がどのようなケ

アを受けたいのか、受けたくないかの確認のための会議といつてもいいでしょう。

ちなみに、リビング・ウイルは一昨年、過剰な延命治療の拒否と十分な緩和ケアの希望という本文に、証人と医療代諾者の指名という項目を加え、さらに昨年、「私の希望表明書」を会報に毎号掲載し(切り取って保管できるようにしてある)、個人の希望に対応できるようにしました。どうしても心は揺れますから、「希望表明書」は繰り返し書き直すことができます。また「リビングウイルノート」を発行し、「終末期の最期の過ごし方の希望」などを書き込む欄を設けて、きめ細かな対応をおこなっています。

Q リビング・ウイルも時代の変化に合わせて深化してきているわけですね。

A そう言えますね。リビング・ウイルか人生会議かの選択ではなく、「人生会議」に臨むにはまず明確な本人の意思、すなわち「リビングウイル」が不可欠です。本人の意思が曖昧なままだと本人の望まない方向に誘導されたり、何人もの人の前で本音を言えなかったりすることもあるかもしれません。明確な本人の意思とはいっても、それすら変わるものでしょうから常に意思の表明が必要ですね。



尊厳死協会が今年1月に発行した『リビングウイルノート』(裏表紙参照)には「最期のときまでの過ごし方」や「食べることができなくなったときの希望」など書き込んでおくページがたくさんある。お手元に置いておくことをおすすめしたい。

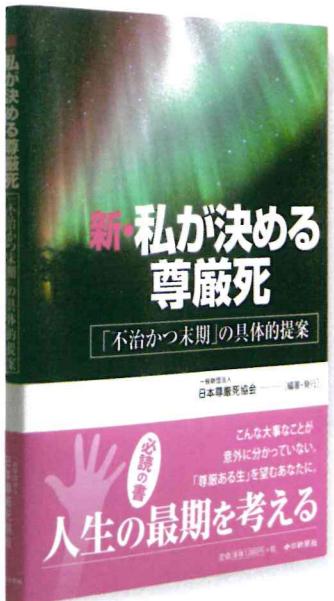
ご寄付ありがとうございました (敬称略)

2018年11月20日から2019年2月末日にご寄付いただいた方々です。

佐々木壽美	10,000	五十公野美園子	1,184	日比野富子	4,500	匿名・北海道	1,000
大森幸一	10,000	笠井美奈子	20,000	藤堂祥代	1,990	匿名・宮城県	2,000
櫻井初子	3,000	篠原戊辰	8,000	藤村洋子	20,000	匿名・千葉県	5,000
鈴木須磨子	2,590	萩原 甫・久子	2,000	小澤和夫	20,000	匿名・千葉県	10,000
今村光栄	4,597	藤原よね子	10,000	間宮敏雄	10,000	匿名・神奈川県	4,000
荻原孝行	3,000	丸山ミヨ子	1,900	池田朝子	5,000	匿名・静岡県	20,000
久保良子	10,000	松村壽子	2,000	堀内史子	5,840	匿名・広島県	1,000
小谷 朗・智子	2,000	三宅菊江	8,590	橘 亮道	10,000	匿名・香川県	5,000
柴山マスエ	1,000	吉田康子	2,000	吉藤ルリ	3,070	【東北支部扱い】	
伊藤宣之	4,000	伊藤孝子	1,000	清田恵子	1,055	京野アイコ	30,000
大久保幸一	1,000	円城茂子	20,000	在前正昭	4,000	【東海北陸支部扱い】	
岡田正雄・あゆ	2,000	岸本幸子	8,900	中村清子	20,000	匿名	1,000
鈴木春生	2,000	松本 亘	1,129	塚本明男	7,800	鈴木眞由美	893
鈴木紀久栄	3,000	富井裕子	1,686	里 ヤスエ	5,000	【関西支部扱い】	
飯山久美子	1,024	越 節子	2,000	四宮喜久	10,000	匿名	1,000
岩松きみ子	2,954	玉木光子	4,000	石窪薄由	5,000		

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用ください。切手でのご寄付もお受けしています。いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であることをお書き添え下さい。

出版案内 日本尊厳死協会がお勧めする必読の書。(書店では扱っておりません)



人生の最期で迷わないために 尊厳死の「不治かつ末期」 専門医が病態ごとに「不治かつ末期」を分かりやすく 説明しています。あなたの「？」に答えがあります。

- がんの末期 人工的な栄養・水分の補給は、かえって苦しみを増す?
- 持続的植物状態 延命措置の事前意思表示がない場合、医師や家族はどうしたら?
- 腎不全「余命」宣告後に、医師から透析療法を勧められたら?
- 救急医療 日本救急医学会が示す「終末期」の判断とは?
- 認知症「不治かつ末期」をどう考える、延命措置は?
- 老衰 天寿を全うする「老衰死」。平穏な死を妨げるものは何か?

自分の終末期にどのような医療を望むのか、望まないのか。
医師たちは「具体的な意思表示が大切」と訴えています。

新・私が決める尊厳死 「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会 発売 中日新聞社

協会事務局でお求めできます。1100円(税・送料込)。お名前、住所、会員の方は会員番号を明記。

代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に。

LWの受容協力医師

第95報

2018年12月～2019年2月の間に
新しく登録なされた医師の方々です。

内:内科 循:循環器科 呼:呼吸器科 消:消化器科 外:外科 整:整形外科 小:小児科 放:放射線科 精:精神科 麻:麻酔科
リハ:リハビリテーション科 リウ:リウマチ科 皮:皮膚科 肝:肛門科 泌:泌尿器科 心内:心療内科 脳外:脳神経外科 アレ:アレルギー科

[会員医師は会とする]

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
阿部医院	内・小・皮・アレ	清水惠一郎	東京都目黒区平町2-5-7	03-3717-2288
農大通り診療所	内	吉田廣海	東京都世田谷区経堂1-5-6 パルファム経堂1階	03-3439-6051
ひまわりクリニック	内	佐藤俊一	東京都世田谷区砧6-4-9	03-3749-7788
深沢1丁目クリニック	内	安西光洋	東京都世田谷区深沢1-39-10	03-5758-8310
緑の森 さくらクリニック	内・神内 心臓血管外・内・緩内・ 老内・麻	佐藤志津子	東京都中野区本町2-2-2 YSビル地下1階	03-5358-8321
三心会 中野なおクリニック	心臓血管外・内・緩内・ 老内・麻	三枝直樹	東京都中野区弥生町2-4-9-2F	03-6379-6021
三心会 中野なおクリニック	心臓血管外・内・緩内・ 老内・麻	久保明宏	東京都中野区弥生町2-4-9-2F	03-6379-6021
多田町診療所	内・呼・アレ・小	右近智雄	東京都中野区南台3-33-5	03-3381-3191
ホームクリニックなかの	内	森 宏太郎	東京都中野区野方4-44-11	03-3387-2734
明笙会たけうち内科	内・小・胃腸	竹内明彦	東京都杉並区成田東3-12-13	03-3313-8428
森谷医院	内	森谷泰和	東京都杉並区松庵1-8-6	03-3334-7285
ききょう会 巣鴨ホームクリニック	在宅	清水健一郎	東京都豊島区巣鴨1-12-1-6F	03-6902-0177
紬愛会 新板橋クリニック	内・在宅・緩和ケア	清水公一	東京都板橋区板橋4-4-4 セレブ新板橋ビル1F	03-5248-5715
はちすクリニック	内	蜂巣 将	東京都板橋区上板橋1-26-13	03-5922-5055
鈴木クリニック	内・小・呼・消内・放	鈴木次夫	東京都練馬区練馬1-27-1	03-3991-1581
康和会 田中医院	内	田中康之	東京都練馬区谷原6-9-8	03-3996-5700
結城クリニック	内・整	鶴町好司	東京都練馬区石神井町2-32-8	03-3995-8701
ねりま西クリニック	内・整	大城堅一	東京都練馬区大泉町3-2-9	03-5933-3077
てらもとクリニック	内・外・消	寺本研一	東京都練馬区南大泉1-15-39 スプリング101	03-5905-6006
進藤医院	内	進藤幸雄	東京都青梅市千ヶ瀬町6-797-1	0428-78-3111
武蔵野総合クリニック	在宅	下村 洋	東京都清瀬市元町1-8-30	042-496-7015
多摩クリニック	内	竹内あづさ	東京都多摩市諏訪5-10-1	042-375-7753
新百合ヶ丘あゆみクリニック	内	門松拓哉	東京都稻城市平尾1-24-7 プレミアリンジュ R-3	042-350-5575
健剛会おぜきクリニック	内・整	小関雅義	東京都武蔵村山市大南2-39-1	042-563-7001
山の上鎮目クリニック	脳外・神内・内・リハ	鎮目研吾	静岡県下田市姉崎432-1	0558-23-8820
まちだ胃腸病院	内	町田浩久	大阪府大阪市西成区山王1-1-15	06-6649-1251
宮城医院	内	宮城信行	奈良県天理市丹波市町302	0743-63-1114
よしだ内科医院	内	吉田真人	鳥取県鳥取市湖山町北6丁目448-1	0857-31-1118
谷口病院	泌	佐伯英明	鳥取県倉吉市上井町1-13	0858-26-1211
福泉医院	内・小	福泉容存	福岡県福岡市中央区白金1丁目18-8	092-531-0908
佐藤外科総合クリニック	外・精・皮	佐藤莞治	福岡県福岡市南区誓醫郷1丁目17-15	092-581-3893
しば田クリニック	外・内	柴田順二	福岡県福津市中央3丁目9-1 ODAビル2F	0940-43-5222
吉田内科クリニック	内	吉田道弘	福岡県宗像市村山田1071	0940-36-4118
大岩外科医院	外・胃腸・麻	大岩俊夫	福岡県古賀市花見東2-1-5	092-942-6231

【お詫びと訂正】

前号(172号)の受容協力医師名簿(22ページ)の一戸由美子医師の医療施設名と施設所在地が間違っていました。
正しくは「河北サテライトクリニック」「東京都杉並区阿佐谷北1-3-12」でした。お詫びして訂正いたします。

【受容協力医師についてのご案内】

全国に1900人ほど登録しているLW受容協力医師のお名前は、協会各支部のホームページ(HP)で閲覧することができます。各支部HPへのアクセスは本部のHPからのリンクをご利用ください。会員専用認証パスワードは「jsdd(半角小文字)」です。紙に印刷した受容協力医師リストをご希望の方は、各支部にご連絡ください。アクセスか郵送でお送りいたします。

医療相談

(通話無料)

0120-979-672

月・水・金曜日
午後1時～5時(変更あり)

病気や気になる症状、特に終末期にかかる不安や悩みについて、相談員(看護師)が丁寧にお聞きし、皆さま自身が主体的に考えて解決できるように支援しています。

協会宛メール(✉ info@songenshi-kyokai.com)でも受け付けております。

●本部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501

TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562

メール
info@songenshi-kyokai.com

ホームページ
<http://www.songenshi-kyokai.com/>
郵便振替口座
東京00130-6-16468

●北海道支部

〒060-0807
札幌市北区北7条西2丁目6
37山京ビル801
TEL 011-736-0290
FAX 011-299-3186

●東北支部

〒980-0811
仙台市青葉区一番町1-12-39
旭開発第2ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海北陸支部

〒453-0832
名古屋市中村区乾出町2-7
正和ビル2階
なかむら公園前法律事務所内
TEL 052-481-6501
FAX 052-486-7389

●関西支部

〒532-0003
大阪市淀川区宮原4-1-46
新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365
FAX 06-4866-6375

●中国地方支部

〒730-0024
広島市中区西平塚町2-10
TEL 082-244-2039
FAX 082-244-2048

●四国支部

〒790-0067
松山市大手町1-8-16
二宮ビル3F B
TEL 089-993-6356
FAX 089-993-6357

●九州支部

〒810-0001
福岡市中央区天神1-16-1
毎日福岡会館5階
TEL & FAX 092-724-6008

*北陸支部は東海支部に統廃合されました

リビング・威尔 Living Will

(終末期医療における事前指示書)
(2017年7月改訂)

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に私自身の考え方で書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成しない限り有効であります。

□私の傷病が、現代の医学では不治の状態であり、既に死が迫っていると診断された場合には、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りいたします。

□ただしこの場合、私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください。

□私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめてください。

以上、私の要望を忠実に果たしてくださった方々に深く感謝申し上げるとともに、その方々が私の要望に従ってくださった行為一切の責任は私自身にあることを付記いたします。

リビング・ 威尔の勧め

日本尊厳死協会は、命の終わりが近づいたら延命措置を望まないで、自然の摂理にゆだねて寿命を迎えるご自分の意思を表した「リビング・威尔」を持ち、安心した日々を送っています。自然のまま寿命を迎えることは、最終の日々をよりよく生きることであり、今を健やかに生きることにつながります。お友だちやお知り合いに協会や「リビング・威尔」のことをお伝えいただければと願っています。

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

事務局から

会費の自動払込のご案内 希望者はご連絡ください

協会年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から自動引き落とし)制度があります。利用には諸手続きがありますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。次の要領で実施しております。

対象 ▶ ご希望の会員

払込日 ▶ 会費払込該当月の28日(28日が土日祝日の場合は翌営業日に引き落とし)

払込額 ▶ 会費相当額

手数料 ▶ 1回の払込に162円(150円+税)のご負担があります

取扱 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、金融機関 ゆうちょ銀行、農協含む)

領収書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷しています。銀行振り込みの場合は会員番号(0を省く)も記入して下さい。なお協会ではコンビニでの振り込みをお勧めしております



口恵子さんは、夫の最期を見ていて「心は揺れ、考えは変わるものだ」と思い至り、元気な時に言い放っていた最期への「強気の言葉」を敢えて聞いていただきました。鳥取に取材にうかがつた松浦喜房受容協力医師や足立誠司医師らも、「人の思いは常に変化し、揺れ続けるもの」との認識を前提に、最期の意思表明が3回変更できる「終活支援ノート」を作り、柔軟に軽やかに真の「最期の意思」を探っていました。

(郡司)

Living Will 目次 —会報2019年4月 No.173—

02 インタビュー
評論家 樋口恵子さん

07 2018年
「ご遺族アンケート」
結果から

10 LW受容協力医師制度の展望
ルポ・鳥取の松浦喜房医師の活動

12 ● LWのひろば

14 ● 連載「四季の歌」花

16 ● 支部活動・報告
2019春~夏

21 「私の希望表明書」の書面

22 「人生会議」って何? Q&A

23 公益認定裁判についての経緯

24 LW受容協力医師のリスト

25 寄付

26 事務局から/編集後記/目次

27 終末期医療における事前指示書/
本部・支部一覧
裏表紙
出版案内

協会会員:10万9523人
(2019年3月4日現在)

次号は、
2019年7月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

編集後記

●元気で健康な時に考えたり思つたりしたことは、病んで伏せつたりすれば変わるものです。

それは仕方のないこと。肉体と精神は運動するもので、若い肉

体の時の「青春の思想」と老いた肉体から出る「玄冬の思い」

とは違つてきます。「考えが丸くなつた」とか言いますが、そうで

はなく肉体が精神を規定しているのでしょう、きっと。巻頭イン

タビュリーにご登場いただいた樋

とは違つてきます。「考えが丸くなつた」とか言いますが、そうで

はなく肉体が精神を規定しているのでしょう、きっと。巻頭イン